

生物多様性横浜行動計画（ヨコハマbプラン） （平成 28 年度）の振り返り

横浜市では「生物多様性横浜行動計画（ヨコハマbプラン）」（平成 23 年 4 月策定、平成 27 年 1 月改定）により、市民が身近な生き物とふれあい、生物多様性の知識を深め、行動を起こしていくための取組を進めています。

このたび計画の平成 28 年度の取組実績をとりまとめました。

生物多様性横浜行動計画（ヨコハマbプラン）は、2025 年（平成 37 年）の将来像を「身近に自然や生き物を感じ、楽しむことができる豊かな暮らし」とし、重点推進施策「5つの重点アピール（※）」、「4つの取組方針」及び、2017 年度（平成 29 年度）までの「具体的取組目標」で構成されています。

（※ 1 b-プロモーション/2 ヨコハマ生き物探検/3 つながりの森/4 つながりの海/5 生き物にぎわう環境づくり）

将来像の実現に向けた 4 つの取組方針と具体的取組

方針 1～普及啓発～ 誰もが都市生活のなかで、自然や生き物に親しみ、実践できる取組をすすめます

「森のイベント」、「環境教育出前講座」、「動物園等における環境教育」、「農体験教室」等の開催を中心に、環境行動の実践に向けた普及啓発、プロモーションを展開しました。これらの展開にあたっては、市民団体・企業等とも連携しながらプロモーションを実施することができました。

平成 29 年 7 月に実施した「環境に関する市民意識調査」では、生物多様性という言葉を「よく知っている」「ある程度知っている」という方が 47.5%でした。一定の浸透が図られているものの、引き続き取組が必要です。

〈主な取組実績〉

※目標は、2017（H29）年度末または 2014～2017（H26～H29）年度の 4 か年の目標値を記載

※主な実績の累計値は、平成 26～28 年度の実績の合計を示しています。

| 取組名 | 目標 | 主な実績 |
|---------------------|-------------------------------------|--|
| 人づくりと場づくりの推進 | | |
| 環境行動の実施に向けた広報・啓発 | 推進 | ・知ろう！伝えよう！生きもののつながりキャンペーン 2016 の開催（5～6 月） |
| 森の楽しみづくり | イベント実施及び広報活動 144 回 | ・イベント等の実施 106 回（累計：345 回） |
| 生物多様性で YES！ | 参加者数 10,500 人/年 | ・環境教育出前講座の実施 プログラム数 50、受講者数 7,552 人 |
| 森づくり活動団体への支援 | ・市民の森等 延べ 40 団体 ・公園 延べ 40 団体 | ・市民の森等 34 団体（累計：延べ 79 団体） ・公園 10 団体（累計：延べ 28 団体） |
| 市民が農を楽しむ支援する取組の推進 | ・農体験教室などの実施 400 回 ・農体験講座の開催 20 回 | ・横浜ふるさと村、恵みの里での体験教室の実施 87 回（累計：270 回） ・家族で学ぶ農体験講座の開催 5 回（累計：15 回） |
| 動物園等での環境教育 | | |
| 動物園等における環境教育 | 環境教育事業数 330 件/年 | ・動物園での環境教育事業 387 件 ・繁殖センターでの環境教育事業 25 件 |



環境教育出前講座



農体験教室(田奈恵みの里)



森づくり活動団体への支援

方針2～保全・再生・創造～地域の特性に応じた保全・再生・創造の取組をすすめます

横浜みどりアップ計画を中心とした「水田の保全」や「緑地保全制度による指定拡大・市による買取り」、保全した樹林地での「森づくりガイドライン等を活用した森の育成」、また、市街地での「地域緑のまちづくり」や「都心臨海部の緑花による賑わいづくり」等の各種事業により、緑の保全・再生・創造を進めることができました。

また、市内産カエル2種やスバルバルライチョウの飼育繁殖技術研究などにより、「横浜市及び国内に生息する希少動物の保全の取組」を推進するとともに、雨水調整池ビオトープの維持管理や、「多自然川づくり」、「アユが遡上する川づくり」など、河川等の生き物生息環境の再生の取組も進めています。

緑地保全、生物多様性に配慮した公園整備、都心臨海部の緑花による賑わいづくりなど、横浜みどりアップ計画等を踏まえた保全・再生・創造の取組をさらに推進していく必要があります。

〈主な取組実績〉

| 取組名 | 目標 | 主な実績 |
|----------------------------|---|---|
| 保全を中心とした取組 | | |
| 水田の保全 | 水田の保全承認 123ha | ・水田の保全承認 120.8ha（累計：120.8ha） |
| 緑地保全制度による指定の拡大・市による買取り | 緑地保全制度による指定 400ha | ・指定の拡大 62.4ha（累計：266.6ha） ・買取り 24.7ha（累計：67.0ha） |
| 森づくりガイドライン等を活用した森の育成 | ・維持管理推進 ・保全管理計画策定 樹林地 12 か所、 公園 8 か所 | ・森づくりガイドライン等を活用した維持管理 樹林地 131 か所、公園 18 か所 ・保全管理計画の策定 樹林地 2 か所（累計：8 か所）、 公園 4 か所（累計：12 か所） |
| 横浜市及び国内に生息する希少動物の保全の取組 | 推進 | ・市内産カエル2種を導入し飼育繁殖技術の研究 ・ニホンライチョウ保全のため、近縁種スバルバルライチョウ飼育繁殖技術の確立のための共同研究実施 |
| 再生を中心とした取組 | | |
| 生物多様性に配慮した河川・雨水調整池の管理 | 実施 | ・関係区局による雨水調整池ビオトープ維持管理プロジェクト等の実施 ・近隣の小学生、教師等を対象とした生き物観察会の実施 |
| 多自然川づくり | 推進 | ・魚道の整備 |
| 多様な生き物を育む場づくり（アユが遡上する川づくり） | 帷子川モデルプランの策定 | ・「はまっこアユ遡上プロジェクト」ワーキング3回 （「アユが遡上する帷子川アクションプラン」策定：27年度） |
| 創造を中心とした取組 | | |
| 地域緑のまちづくり | 46 地区で推進（2014～2018 年度） | ・9 地区の団体と新たに協定を締結し、計 29 地区で緑化整備や地域緑化活動に助成（累計：35 地区で推進） |
| 都心臨海部の緑花による賑わいづくり | 推進 | ・みなとみらい 21 地区から山下地区を中心とした 12 か所で、緑のネットワーク形成を推進 ・山下公園、港の見える丘公園、新港中央広場など 8 か所において、緑や花の良好な管理を推進 |



保全された水田（戸塚区）



保全管理計画の策定検討の様子



山下公園「未来のパラ園」の維持管理（中区）

方針3～しくみづくり～ 保全や評価などに取り組むしくみづくりをすすめます

陸域生物調査や、海域生物調査を実施しました。また、小学生による「こども『いきいき』生き物調査」を実施しました。横浜市役所の率先行動としては、区局統括本部ごとに環境行動目標を策定し、また、全職員向けに研修を行う等、意識啓発に取り組ましました。

市民が自ら生き物を調べ、主体的な活動へとつながるよう、今後も生き物調査を継続していくとともに、企業や大学・研究機関等との連携を進めていく必要があります。

〈主な取組実績〉

| 取組名 | 目標 | 主な実績 |
|--------------------------|------|---|
| 生物調査データの継続的な蓄積と活用 | | |
| 市民参加の生き物調査の推進 | 推進 | ・小学生対象アンケート調査 こども「いきいき」生き物調査を実施 約160校、10,000人超の児童参加 |
| 生物生息状況モニタリング調査 | 継続実施 | ・大岡川流域3か所における陸域生物調査を実施し、4年前に実施した同地域における調査結果との比較 ・横浜市内の海域10地点（河口・海岸域7地点、内湾域3地点）において秋季と冬季に生物調査を実施 |
| 市役所による生物多様性の取組の推進 | | |
| 横浜市 ISO 環境マネジメントシステムへの反映 | 推進 | ・区局統括本部ごとに環境行動目標を策定し、職員の環境に配慮した行動を推進 ・総合環境研修を実施し、市職員の環境意識の啓発を実施 ・自己チェック及びヒアリングによる内部監査を実施 ・日常の事務事業活動における環境負荷の低減や、研修の実施を重点取組とした新たな横浜市環境マネジメントシステムを構築 |



こども「いきいき」生き物調査 2016 調査票



近年の陸域生物調査地点と対象生物



海域生物調査で確認された魚類の例 (上:アカタナゴ、下:マコガレイ)

10,000 人を超える小学生が市内全域生き物調査に参加してくれました！

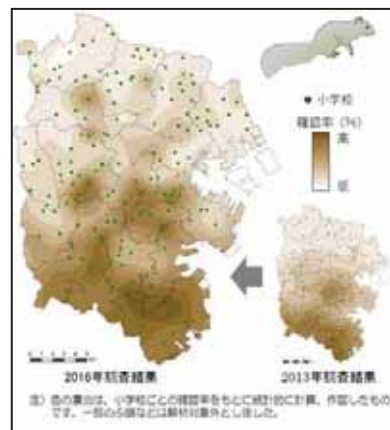
～こども「いきいき」生き物調査 2016 調査結果～

平成28年の夏休みに、市内の市立小学校342校の児童を対象に、家や学校の近くで見つけた生き物を報告してもらう市内全域調査を実施しました。162校、10,984名の児童が参加してくれました。

市内で見られるリス（クリハラリス・タイワンリス）は、もともと横浜には生息していなかった外来種です。市南部を中心に生息していますが、3年前の調査結果と比較すると、リスの確認率が高い地域が北へ拡大している様子が見られました。

〈2016年の調査対象の生き物〉

- ・ツバメの巣 ・リス ・ハグロトンボ ・ノコギリクワガタ
- ・レンゲソウ（ゲンゲ） ・ダンゴムシ ・ウグイス（の鳴き声）
- ・カタツムリ ・ナナホシテントウ



【図】リスの調査結果

参加してくれたみんな、ありがとう！今後も地域の自然や生き物に関心をもってね！



方針 4 ～まちづくりと経済活動～ 生物多様性に貢献するまちづくりや経済活動の支援をすすめます

海域において、市民団体や企業等と連携した、研究・調査やイベントを開催しました。

様々なステークホルダーと連携し、小学生にエコ活動呼びかける「こども『エコ活。』大作戦！2016」を実施し、また、農によるまちの活性化と新たなビジネスモデルの構築を目指し、企業等と連携した地産地消の取組を実施しました。

生き物を身近に感じることができる、都心のまちなみと海・川を活かした豊かな環境のあるまちづくりを進めていく必要があります。また、企業との連携を推進し、生物多様性の取組につながる環境分野の取組を促進していく必要があります。

〈主な取組実績〉

| 取組名 | 目標 | 主な実績 |
|---------------------------------------|-----------------------------------|---|
| 生物多様性に貢献するまちづくりの推進 | | |
| みなとみらい 2050 プロジェクトの推進 | 推進 | ・みなとみらい 21 地区を中心に 5 つの公民連携プロジェクトチームで推進 |
| 都心臨海部の海づくり | 推進 | ・山下公園前海域で、浅場の造成などの環境整備を民間企業との共同研究により実施 ・世界トライアスロン大会の EXPO 等に参加し、水質浄化等の事業の PR を実施 ・自動車道護岸沿いの水域において、これまで見られなかった生物や未成魚を確認 |
| 金沢区野島海岸周辺の海づくり | 推進 | ・野島海岸で市民団体と連携したイベントを後援、出展参加し、海域の生物による水質浄化の PR 等を実施 ・市民活動団体と協働した体験プログラムの実施 参加者数 567 人 ・野島青少年研修センターでの自然体験プログラムの提供 参加者数 12,797 人 |
| 金沢区白帆地区の海づくり | 推進 | ・アマモの花枝採取、自然学習イベントの実施 |
| 横浜ブルーカーボン事業の推進 | 推進 | ・海洋資源を活用した地球温暖化対策の調査・検討 ・カーボン・オフセット、クレジットスキームを検討し、カーボン・オフセットの独自制度の運用を開始 ・事業の広報や、環境啓発イベントを開催 |
| 企業による社会参加の拡大と生物多様性に貢献する経済活動の支援 | | |
| 企業とのコミュニケーション | 推進 | ・横浜市環境保全協議会、横浜商工会議所、国連 WFP 等と連携し、「こども『エコ活。』大作戦！2016」を実施 |
| 市民や企業等との連携（地産地消の推進） | 企業等との連携 50 件 (2014～2018 年度) | ・企業等との連携 12 件（累計：25 件） |



自動車道護岸沿い水域の生き物



わかめ収穫イベント



企業と連携した地産地消(ルミネマルシェ)

平成 28 年度の具体的な取組実績一覧は、環境創造局ホームページに掲載しています。

<http://www.city.yokohama.lg.jp/kankyomamoru/tayou/>